

女なのか彼女なのかどっちや

昼の体のだるさが全くない。

玄関に出て、外を散歩した。

古い宿屋だ。

戻って、中を探索すると、
電球一個ついた台所があった。
窓が開いている。

「ああ、この窓かあ」と、窓に近づき、
そこから、外を見ると、
遙か下に、温泉プールが
うっすらと明かりに浮かんで見える。

宿屋のお手伝いの女の人たちが、
ゆかた姿で、後片付けをしている。

「ああ。ここからじゃ、
暗くて、誰が誰だか、わからんなあ。」

バタフライしてて、
「けつを見られたかなあ」と思ったが、
安心した。

「あれは、温泉プールじゃなくて、
普通は、混浴の露天風呂なのかなあ。」

じっと見ていると、暗いのに目が慣れて来た。